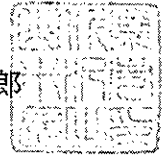


土 木 第 4 3 2 号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

米沢市長 安部三十郎



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（提出）

特段のご高配をいただき厚く御礼申し上げます。

平成20年9月19日付け、国道企第37号で依頼のありました、このことについて
別紙回答書を提出いたします。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

山形県米沢市

地域を活性化するには、生活や観光、産業など様々な分野で交流連携を進める必要があります、そのためには高速道路を始めとする道路ネットワークの整備が重要であると考えます。

本市においては、ご高配をいただき、現在、東北中央自動車道の整備が鋭意進められておりますが、地方を取り巻く環境は依然厳しく、均衡ある国土の発展や都市と地方との格差を是正し、地方が活性化するにはネットワークが繋がっていない高速道路の整備や都市間を連絡する高規格道路の整備推進が優先度の高い政策と考えており、地方にとって「真に必要としている道路整備」が滞ることなく、着実に進むよう切に願っております。

先般、「道路特定財源等に関する基本方針」において、道路特定財源の平成21年度からの一般財源化や道路中期計画を5年に短縮し新たに策定することとなり、基本方針では「必要と判断される道路は着実に整備する。」「地方財政に影響を及ぼさないように措置する。」と明言しておりますが、もし道路特定財源に替わる安定した財源が担保されなければ、当市にとって、待ちに待って、ようやく順番が廻って来た「真に必要としている道路整備」である東北中央自動車道のネットワーク化が遅延したり、歳入不足に陥ることは歴然であり、それは地方道路整備の停滞のみならず、道路維持や除雪、ひいては住民生活に必要な医療、保健、福祉、教育等の住民福祉の根幹的な財源確保に支障を及ぼし、自治体財政全般が窮地に陥るのではないかと非常に危惧しているところです。

また近年の規模の大きい自然災害が頻発していることや、大規模地震発生懸念から、災害は住民にとっても常に身近な問題であり、行政にとっても万全な危機管理体制が問われております。

そのようなことから、引き続き緊急輸送道路の確立や互いに補完し合う道路ネットワーク整備を進めるとともに、公共施設や病院などを相互に結ぶ生活幹線道路整備や地区孤立対策等の防災・減災体制を図り、都市・地方を問わず住民(国民)が何処においても、安全で安心な暮らしを守る施策が急務と考えます。

さらには本市のような豪雪地帯では、道路除雪の充実や流雪溝整備等の克雪対策が住民から常に強く求められており、雪国においても住民が安心して豊かに生活していくための方策を特段に示して頂ければ幸いと考えます。

結びとして「道路の中期計画」の再策定に当たっては、単に効率性だけを求めることなく、また尺度を地域実情を踏まえない客観的数値(B/C)のみに頼ることなく、均衡ある国土形成が喫緊課題と第1に捉え、地域間格差や生活者重視の視点を踏まえつつ、地方の声が響き、地域のニーズを十分踏まえた策定を是非ともお願いいたします。

○現状

高速道路網が途切れており、ネットワーク化が図られていないことから、観光・産業・物流・都市農村交流などの多様な交流連携が進まない、自然災害に強い高規格道路による緊急時の輸送ルートが確保されていない、高度救急医療への速達アクセス性が確立されていない等により、高規格道路の未着手区間の早期整備が急務である。

市町村道は管理延長が長く、未改良区間や隘路で日常生活や救急・緊急活動にも支障を及ぼすような道路が、いまだ数多い。

また橋梁を始めとする道路施設の高齢化対策が急務であるとともに、年々増大する維持管理費に対応しきれない状況になってきており、施設更新どころか維持補修で凌いでいる状況である。

本市のような豪雪地帯では、定住を促進するため冬期間においても住民の安全・安心な雪国生活を確保する責務があるが、高齢化等により年々住民ニーズは高まっている反面、除雪対策費が道路予算に占める割合が大きく、厳しい財政事情が今後も予測されることから、このままでは、「必要最低限の住民サービス」までもが、維持できない状況下になると推測される。

○課題

- ・東北中央自動車道の整備促進
（福島JCT～米沢 IC、米沢 IC～米沢北 IC、南陽高畠 IC～山形上山 IC）
- ・米沢 IC～米沢北 IC 間に追加インターと有料道路方式でいうSA若しくはPAの設置
- ・新潟山形南部連絡道路の整備促進
（東北中央自動車道～日本海沿岸自動車道間）

市町村においては、新たな税収が見込めないまま、福祉予算の増大や三位一体改革等により地方財政が脆弱化し、行財政改革を邁進せざるを得ない状況下にある。

- ・年々減少する道路関係予算に相反し、増大する維持管理費や道路施設の高齢化対策費への対応
- ・今後、必然とされる橋梁の長寿命化等の対策を図っていくためには、あまりにも技術者不足である。
また道路施設の高齢化対策とともに、橋梁の耐震化対策が必要となっている。

- ・除雪費補助の創設
- ・除雪機械費補助の充実
- ・克雪施設補助の充実
- ・道路融雪施設の更新、修繕への対策

②－２ 地域の目指すべき将来像

山形県米沢市

今後、地方都市では、人口減少とともに少子高齢化が一層進行する中で、地域の活力やコミュニティを維持していくことが難しいものになって行くほか、経済、産業分野における一層のグローバル化が進行し、地域経済に大きな影響を与えるものと見込まれます。

さらに行政需要が一段と複雑化、多様化、高度化し、地方自治体の果たす役割が大きくなる一方、地方財政は、税収の減収や三位一体改革等による地方交付税削減などにより、一層厳しい状況になるものと見込まれます。

そのようなことを踏まえ、

- ・広域的連携交流を行い、協働と交流のネットワークが広がる地域
- ・活力のある産業力を有する地域
- ・雪国においても、誰もが安心して安全に、かつ安定して暮らせる地域
- ・恵み豊かな自然を活かし、美しく利便性の高い快適な地域

を目指すべきものと考えますので、道路行政においても「幹線道路ネットワークの整備推進」、「自然災害に強い道路」、「暮らしを支える道路」を根幹に、「みちづくり」が「地域づくり」に、大きく寄与するものと捉えておりますので、「新たな道路中期計画」に期待しております。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

山形県米沢市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	◇高規格幹線道路の整備促進 ・東北中央自動車道 ◇高規格道路から市街地アクセスの強化 ・米沢 IC～米沢北 IC 間に追加インターを設置 ◇地域高規格道路の整備促進 ・新潟山形南部連絡道路 ◇生活幹線道路ネットワークの形成 ・国道 287 号米沢北バイパス等 ・慢性的渋滞交差点対策 (R13 花沢交差点等) ・都市計画道路の整備促進(都計道万世橋成島線等) ◇地域活性化を図る施設整備 ・米沢 IC～米沢北 IC 間に、SA若しくはPAの設置	・冬期における高速性の確保及び交通障害の解消 ・企業活動や観光による交流人口の拡大 ・医療、物流など生活に必要な交通サービスの確保 ・企業誘致による雇用創出 ・定時性や速達性による利便性向上 ・農林水産業の販路拡大 ・地域格差の解消 ・利便性向上による市街地活性化 ・観光人口の増加による地域振興 ・地域特産品の販売による地域振興	・八幡原工業団地、オフィスアルカディア団地への企業立地 ・山形大学との産学官の連携 ・NHK大河ドラマ「天地人」の放映 ・国道 13 号栗子峠は連続雨量 180mm で通行制限が発生
・災害時における危機管理の強化	◇高規格幹線道路等の整備促進 ・東北中央自動車道、新潟山形南部連絡道路 ◇米沢 IC～米沢北 IC 間に追加インターとSA若しくはPAの設置 ◇橋梁の長寿命化対策と耐震化	・災害に強い緊急輸送道路の確保 ・追加インターを整備することで市街地からの高度医療施設(第2・3次)への速達アクセス性が向上 ・緊急輸送道路を担う高速道路内にサービスエリア若しくはパーキングエリアを整備することで災害時の避難拠点となる。 ・災害時における避難施設や孤立集落へ	・米沢市内には、第 2 次医療施設が 3 箇所有り ・第3次医療施設は、山形市、川西町、福島市に有り(救命救急センター)
・雪に強い生活環境の確保	◇道路除雪、道路維持補修の充実 ・除雪費補助の創設、道路維持費の確保 ◇克雪施設の整備、改修促進 ・消流雪溝、防雪柵等補助の拡充	・円滑な冬期交通路の確保 ・冬期交通事故の減少 ・生活道路の保全	・市道管理延長は、約 700km ・近年の降雪累計の最大は H=1,038cm (H17 年度)